

社会福祉法人わたぼうしの会 Good Job!センター香芝 の取組  
一般財団法人たんぽぽの家

たんぽぽの家 小林大祐

## 組織沿革

1973年4月 奈良たんぽぽの会 結成

1976年8月 財団法人たんぽぽの家 設立

1987年7月 社会福祉法人わたぼうしの会 設立

## 事業沿革

1975年4月 わたぼうしコンサート 開催

1976年8月 全国わたぼうし音楽祭 開催

1978年 たんぽぽ学級 開始

1980年5月 「たんぽぽの家」 オープン

1980年7月 たんぽぽ自由学校 開校

1988年8月 「わたぼうしの家」 オープン  
社会就労センターたんぽぽの家 スタート

1998年4月 福祉ホーム「コットンハウス」 スタート  
たんぽぽ楽食サービス スタート

1999年4月 たんぽぽ生活支援センター スタート

2004年5月 「アートセンターHANA」 リニューアルオープン

2007年 エイブルアート・カンパニー スタート

2012年4月 たんぽぽ相談支援センター スタート

2016年4月 福祉ホーム「有縁のすみか」 スタート

2016年9月 「Good Job!センター香芝」 スタート



たんぽぽの家

1976年～

芸術文化活動を通じて、

障害のある人の学び・社会参加・しごとづくりを支援

## 障害のある人の生き方の選択肢を、せばめる課題と、ひろげる活動

- 同情による社会とのつながり → 福祉×異分野の共感による社会とのつながり
- 表現する(語る、かく、うたう、踊る、つくる、発信する)機会が少ない → 可能性の芸術運動
- 学ぶ機会が少ない → たんぽぽ自由学校、コミュニティカレッジ、セミナーなど



全国わたぼうし音楽祭 (福祉×ミュージシャン)



IoTとFabと福祉 (福祉×テクノロジー)

## たんぽぽ自由学校 / コミュニティカレッジ 1980年～

- [1] 知識を広め、表現力をつける基礎学習
  - [2] それぞれの能力に応じて、陶芸、絵画、手芸などに取り組む技能学習
  - [3] クラブ活動を通して、助け合いのなかで学ぶ共同学習
  - [4] 合宿を通して生活技術を見につける生活学習
  - [5] 機能回復訓練とスポーツを楽しむリハビリスポーツ
- (1) 障害のある人のための講座
  - (2) 一般の人のための講座(子どもから高齢者まで)
  - (3) とともに学ぶ講座

### ・書道講座

### ・万葉の恋歌

万葉集のなかから恋をうたったものを集め、恋ごろの今昔を楽しく考える)

### ・英会話講座

### ・文化財講座

奈良国立文化財研究所の専門家が古代史を学び、発掘現場にも出かける

### ・暮らしを考える

フィルムフォーラム「自立とは」をはじめ、買い物学習、クッキング・スクール、台所用品の点検など自立生活について考える

### ・自然に親しみ、歴史を学ぶ

古代奈良の土器づくりの陶芸教室、日本最古の道と言われる山の辺の道を歩く

### ・仕事を考える

いろいろな仕事場を見学したり、奈良の地場産業について学んだ

### ・ギター、布の絵本、油絵、詩吟、コーラス、点字、手話、スポーツ、ファッション、日本語など約30個の講座

## Learning Exchange (ラーニング・エクスチェンジ)

学校外の学校を、地域の人たちと一緒につくり、生きた知識を提供できる人と、そうした知識を学びたい人を募集

## 可能性の芸術運動(エイブル・アート・ムーブメント)

※エイブル・アート = 新しい文化をつくりだす市民の自律的な力

1996～2002 トヨタ・エイブルアート・フォーラム

全国各地で福祉やアート、教育など多様な立場の人たちからなる実行委員会を組織し、34地域、計63回のフォーラムを実施

2000～2017 ひと・アート・まち

アートでまちを人間的で豊かな空間にしようという市民プロジェクト。近畿ろうきんと協働で近畿2府4県を巡回しながら、地域のアートNPOや福祉団体、教育機関等と連携し、アートプロジェクトを実施。

2003～ 福祉をかえる「アート化」セミナー

全国の福祉施設においてアート活動を実践している人たち、実践したいと考えている人たちとともに、理念と具体的方法について学びあうセミナーを開催

2004～2009 明治安田生命社会貢献プログラム「エイブルアート・オンステージ」

障害のある人たちとアーティストが出会い、演劇、ダンス、音楽などの舞台芸術分野で、今までに見たことのない新しい舞台を創造することを目的とした舞台芸術プログラム。5年間に34グループを支援。

## 厚生労働省 「障害者芸術文化活動普及支援事業」

- (1) 相談窓口「障害とアートの相談室」の設置
- (2) 研修事業(施設見学ツアー、インターンシップ、セミナーなど)の実施
- (3) ネットワークづくり(トークセッションなど)
- (4) 作品、作家の調査・発信(訪問聞き取り調査、アンケート調査、図録制作、展覧会開催など)

### 2017年度 事業内容

#### A.舞台芸術に関するレクチャーワークショップ

障害のあるパフォーマーをはじめ、多様な人たちと協働してダンスや音楽などの創作を行っているアーティストの方々を講師に招き、パフォーミングアーツを学び、体験するレクチャーワークショップを開催します。

#### B.芸術活動エクステンジプログラム

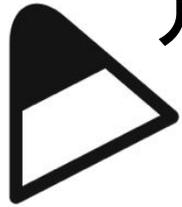
奈良県内の福祉施設で実践されている障害のある人とのパフォーマンス活動を、まだそういった活動が盛んではない福祉施設にアウトリーチし、福祉施設の利用者、職員を対象としたワークショップを行います。

[1] 事業所エクステンジ・ワークショップ ※即興音楽、ダンス

[2] インターナショナルエクステンジ・ワークショップ ※ Theater Breaking Through Barriers (TBTB/ニューヨーク)

#### C.著作権・知的財産権に関するセミナー

弁護士を講師に招き、障害のある人のアート活動に関わる知的財産権について、特に著作権の問題を中心に、基礎から学ぶレクチャーを行うとともに、作品の制作に関わっている福祉施設の方や、作品の売買を行っているギャラリーオーナーをゲストに招き、実際の現場で生まれている権利の問題について議論するトークセッションを行います。

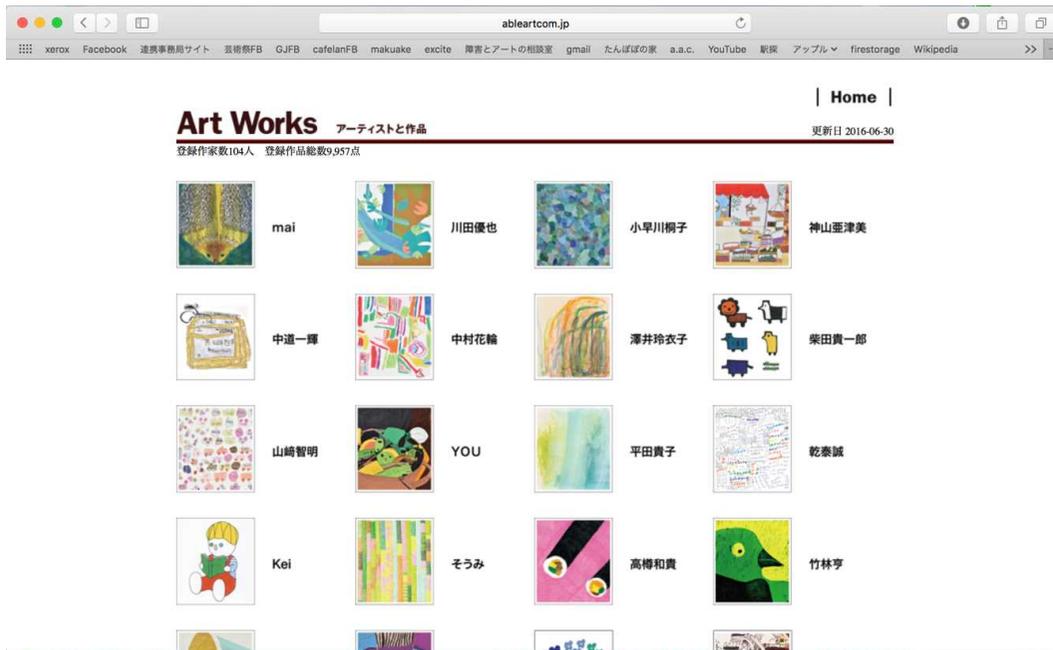


# アートを仕事につなげる「エイブルアート・カンパニー」

全国の113人のアーティスト／12,525点の作品をウェブサイトで公開

Able Art Company

障害のあるアーティストと企業をつなぐ中間支援の役割



# Good Job! プロジェクト

障害のある人たちと社会のはたらき方をデザインする取り組みです。  
福祉の垣根を超えて異分野と協働し、既成の労働観を変えることを目指しています。



- 2012年 障害のある人の表現から生まれた魅力的なプロダクトを紹介する展覧会「Good Job!」を大阪で初開催
- 2013年 「Good Job! 展」として、障害のある人との協働から生まれている新たなしごと・はたらき方を紹介。これまでに北海道・宮城・東京・長野・愛知・大阪・兵庫・福岡・大分など全国で開催
- 2015年 社会にひろめるべき取り組みを発見・発信することを目的とした「Good Job! アワード」を設立
- 2016年 これからのしごと・はたらき方をつくる拠点「Good Job!センター香芝」を奈良県香芝市にオープン  
Good Job! プロジェクトがグッドデザイン 金賞を受賞
- 2017年 継続的な応援をするための「Good Job!基金」を公益財団法人パブリックリソース財団を通して設立  
Good Job! センター香芝がグッドデザイン ベスト100を受賞



# Good Job! プロジェクトにおける学びの事例

私たちは「ケア」を考えるとき、心のケアだけではなく、身体のケア、生活のケア、他者と相互につながる関係のケア、これら「全体性のケア」を考えます。学びも同様に考えると、

心の学び = 人の痛みや悲しみ、喜びや悔しさなどを知る・感じる

●ハーモニー [東京都世田谷区／就労継続支援B型]

精神障害のある人の幻聴や妄想の実体験をもとに、等身大の生活を“かるた”にした「幻聴妄想かるた」。日々の楽しい事、悲しいこと、うれしいこと、悔しいこと、幻聴妄想の世界に触れることで、精神障害のある人の居場所について考えるきっかけになる。

身体の学び = 自分の身体について知る、身体を通して学ぶ

●株式会社ハーバー研究所

就労前、就労中の障害のある人に向けて「スキンケア&メイク講座」を行なっている。自分の顔や肌にさわること、自分の身体をケアすることを通して自分に誇りをもち、自立をうながすという、金銭だけではない企業の本質的な価値が存在している。

生活の学び = 暮らしや職業のための知識や経験を積む

●株式会社 OTON GLASS [東京都港区]

文字を読むことが困難なディスレクシア(読字障害者)や弱視者を対象とした「読む行為」をサポートするスマートグラス。読みたい文字を撮影し、音声で内容を理解する。

関係の学び = 家族や地域とともに相互に学び合う

●認定NPO法人D×P(ディーピー)[大阪府]

約60万人とも言われるニートの問題に取り組むキャリア教育プログラムクレッシェンド。ニートが生まれる原因は「機会の格差」にあると捉え、通信高校生を対象に、3ヶ月間のプログラムを実施。

# GoodJob! Center KASHIBA

- 就労移行支援 実員3名(定員6名)
- 就労継続A型 実員1名(定員10名)
- 就労継続B型 実員25名(定員14名)
- 生活介護 実員9名(定員10名)

はたらきがい・生きがいのあるしごと・はたらき方をつくる拠点

障害のある人が豊かに生きるための

「はたらく」「まなぶ」「くらす」「からだとむきあう」

所得の再分配から 可能性の再分配へ

創造性の開発

関係性の創造

機会性の開拓



下記5つの事業(製造・流通・カフェ・アトリエ・コミュニティカレッジ)を選択して、週間のプログラムを組み立てている。

製造	流通	カフェ	アトリエ	コミカレ
<p>●<u>デジタル工作技術と仕事の組み合わせ</u> 3Dプリンタ、レーザーカッター、プロッターなどを活用し、伝統工芸品、杉や漆など県内の素材を使った製品をつくっている。</p> <p>●<u>デジタル工作技術によるアートの拡張</u> 絵画や書など表現活動をしているため、その表現をアクリル材や合板剤などさまざまな素材や用途に転用して製品をつくっている。</p> <p>●<u>体験ワークの運営</u> 伊勢丹新宿店や大丸京都店などの商業施設、ユニバーサルキャンプなどの企業や地域、平城宮歴史公園などの公共空間、GOOD DESIGN STOREなどの店舗において制作体験プログラムを運営</p>	<p>●<u>販売業務</u> 実店舗販売、商業施設やイベントにおける外部販売、ECサイト、店舗委託など、それぞれの販売チャネルに係る業務(企画、POP制作、接客、広報など)</p> <p>●<u>EC業務</u> 商品の写真撮影、バナー制作、オンラインショップへの登録作業など、ECサイト運営に係る業務</p> <p>●<u>管理業務</u> 受発注、入在庫、商品の品質、在庫、資材などの管理に係る業務</p>	<p>●<u>飲食の調理</u> ホットドック、ケーキ、コーヒー、ジュースなどをつくる</p> <p>●<u>新商品の開発</u> お菓子やドリンクなどの製品の開発を行う</p> <p>●<u>営業・接客活動</u> 接客、外部出店見学案内</p> <p>※見学案内はカフェのメンバーに限らない</p>	<p>●<u>創作活動</u> 絵画、イラストレーション、アニメーション、書、刺繍、織り、キャンドルなど、自分自身で画材やモチーフを選択して創作を行う。</p> <p>●<u>パフォーマンス</u> 大学等と連携し、舞台演劇、即興ラップなどパフォーマンスアーツ ※「発達障害のある人とともにつくる演劇・ダンスの可能性」</p> <p>●<u>オープンアトリエ</u> 卒業後に表現できる場や、アートを通してつながる場をつくる。施設利用者だけでなく、地域の中に、行きたいときに行くことができる空間と時間としてのアートスペース。 ※2015年度厚生労働省 障害者の芸術活動支援モデル事業「学校卒業後の障害のある人の地域での表現活動に関する調査と実践」</p>	<p>●<u>新聞を読むワークショップ</u> 関心のある記事を共有することで、地域や社会への関心を高める。</p> <p>●<u>くらしについて考える</u> 将来の暮らしについて考えたいというニーズが多く、実家・一人暮らし・グループホームなど住まいの方法や経費を学ぶ。</p> <p>●<u>うたのワークショップ</u> うたうことを通してふだんの仕事とは異なる体験を感じてもらう機会。季節のうたやリクエストによるうたなどを楽しむ。</p> <p>●<u>ダンスのワークショップ</u> 身体を動かしながら、他者との関係やコミュニケーションを楽しみ、学び合う機会。テーマを決め、身体の部位を動かす。</p> <p>●<u>お菓子づくり</u> 季節に合わせて、お菓子づくりを楽しみながら、料理の技術をあげる機会。</p> <p>●<u>お出かけツアー</u> 美術館やアートフェスティバル、花見、ハイキング、バーベキューなど、ボランティアも含めて交流する機会。</p>

## 就労移行支援事業

週1回、就労移行に向けた学びや外部機関への訪問に取り組んでいる。

- エコマップ(周辺にある社会資源との相関関係をあらわした地図)の作成
- 就業・生活支援センターへの訪問
- ハローワークへの登録、求人票の調査・作成、障害者職業センターへの訪問
- ナビゲーションブックの作成  
(自らの特性、職業上の課題、それに対応する配慮や留意事項等を記載した本)
- 障害者就職説明会への訪問
- 企業訪問(通信、アパレル、製薬)、実習、職場体験
- 学び  
朝礼について考える、1日の生活時間の記録、仕事に集中できるときを考える、 仕事の工程表・出来高表の作成、  
自分の思う簡単な仕事／難しい仕事を考える、マナー講座

### 障害者就業・生活支援センター(なかぼつ)と連携 ～現状と課題～

#### 【現状】

- (1) 企業がなかぼつに相談(受入れをどう始めるか) → 複数の就職希望者に対して見学ツアーを実施 → 職場体験
- (2) 職場体験の希望に対して、企業へ交渉をおこなったり、情報提供がある

#### 【課題】

・地域で支援の差がある。たとえば、就労に対するイメージがないので体験して学びたいと思った人が、就職を真剣に考えてないと受けられず(登録すらできず)、就職の目途がたちそうな人だけが受け入れられる。

## 外部団体との連携・協働

企業 ※(株)省略	トヨタ自動車、丹青社、明治安田生命保険相互会社、コクヨ、内田洋行、 中川政七商店、良品計画、フェリシモ、ソニー、NeoLAB
NPO	ファブラボ山口、ファブラボ北加賀屋、日本ぐらふい k k NPO法人エイブル・アート・ジャパン（宮城・東京）
福祉施設	NPO法人リベルテ（長野）、社会福祉法人いぶき福祉会（岐阜）、 株式会社夢空間（大阪）、社会福祉法人ぷろぼの（奈良）、 社会福祉法人大和福祉会（山口）、NPO法人まる（福岡）、 一般社団法人生き方のデザイン研究所（福岡）
教育機関	慶応義塾大学、情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]、京都大学、 京都市立芸術大学、京都造形芸術大学、兵庫県立大学、 山口情報芸術センター [YCAM]、山口大学、九州大学
商業施設	GOOD DESIGN STORE、伊勢丹新宿店、高島屋難波店
行政	奈良県香芝市、大分県

# 福祉と社会の新しい協働 「IoTとFabと福祉」

- ▶ デジタル技術を活かしたクリエイティブなしごとづくり ※ 3Dプリンタや視線入力装置などを活用する
- ▶ IoTを活かしたインクルーシブ・ワークプレイス ※ データを自分で活用する(困りやしんどさを伝える、調子を知る)



## ■ インクルーシブデザインによる協働学習

### 「インクルーシブデザイン」

日常生活のなかで困難・排除を感じている人と、  
ともに問いを深め、悩み、解決の糸口を探し、  
製品・サービスなどを生み出すデザイン手法

※関西圏において、京都大学総合博物館の塩瀬隆之先生とたんぽぽの家が普及活動を行う  
塩瀬先生はGood Job!センターの協力者であり、中央教育審議会教育課程部会専門委員を務め、  
本資料についても連携して作成を行なった

### 西はりま天文台における視覚障害・聴覚障害のある人との取り組み

- ①口径60cm 望遠鏡で昼間の星の観望会
- ②口径200cm なゆた望遠鏡の見学会

を一緒に体験しながら、  
「口径200cmの何がすごいのか」「なぜ星が見えるのか？」  
「一緒に楽しむにはどうしたらできるか」といった問いに対して試作を行う

## 障害のある人とともに学ぶ天文台など社会教育施設の可能性



タブレットを使つての鑑賞を試す。



望遠鏡の中を通る光の経路が理解しにくい、という声を受けて試作した模型。光の経路をタコ糸で結び、目で見ても、手で触りながら辿っても理解できるように工夫。

## 「障害のある人の主体的・対話的で深い学び」を支える学習環境ポートフォリオ

### ■ 多様な学び方のオプション(レパートリー)をもつ

Good Job!センターの場合、利用者が1つの作業を習熟するだけでなく、アート、デザイン、工芸、情報リテラシー、創作活動、表現活動、他者との交流など、自分の出番・舞台を見つけることができる可能性が増える。

#### 【課題】

- ・Good Job!センターだけで全てのレパートリーをもつことはできない
- ・Good Job!センターのように外部の人たちが関わる機会が多い施設でない場合、どのようにレパートリーを増やすか
- ・一般雇用に向けた学び(訓練など)と、一人ひとりの能力にあった仕事を見つける学びの結びつき
- ・これらの学びを学校だけに託すと教員負担が増す

#### 【対策】

- ・社会教育士の活用(障害のある人の学びと、生きた知識をもった人のマッチング)
- ・福祉施設、情報が集まる場としての「母校」「地域の学校」、就労支援機関、企業の交流による居場所の拡充
- ・アートやデザイン、IoTやFabなど、新しいことを学ぶ場を提供することで若い人を呼び込む